



◆ ◆ ◆ ◆ ◆

●勤務医に関する話題や投稿などで構成するコーナーです。勤務医生活の雑感、あるいは意見をこの欄にお寄せください。
●投稿要領…700字程度、名古屋市昭和区妙見町19-2、愛知県保険医協会「勤務医コーナー」係まで。薄謝進呈致します。

社会保障を、取り戻す。

天白区 吉岡 モモ

先日、「健康で文化的な最低限度の生活」というマンガ・ドラマの監修を務めた衛藤氏の講演を聴きました。衛藤氏は福祉事務所にいる生活保護ソーシャルワーカーで、マンガ・ドラマの半田さん役のモデルです。

私が思っていたよりも温かく素敵なものでした。そして生活保護の制度は知っていても、その成り立ちや理念は意外と知る機会がなく、今回その歴史を熱く教えてもらい、私たち医療者と通じる「命と暮らしを守る」仕事へのやりがいを感じるを受けました。中には公務員として残念な方もいるようですが…。

マンガは現在も連載中で、最新刊は子どもがテーマとなっています。これまでの作品の中でも、生活保護世帯の高校生が知らずにバイトで働いて貯めたお金を取り上げられ不正受給と言われたり、親から受けた虐待が元でトラウマを抱え対人恐怖から働けなくなり保護受給となった若者がいたり、様々なケースの中に子どもたちがたくさん登場するため、小児科医としてもリアルな問題として読ませていただいています。保護を受けている患者さんが診察室で見せる姿の背景に多くの困難があるこ



柏木ハルコ著
「健康で文化的な最低限度の生活」
出版社：小学館、7巻まで発売中

とをよく理解でき、また目からウロコの情報もあるのでは是非みなさんにも読んでいただければと思います。さて、憲法とともに私たちが手にした社会保障は、当時の理念をたった五十年のうちに国の責任から個人の責任へ転換させられ、その二十年後の今、さらにズタボロにされています。

とりわけ、生活保護基準の引き下げ問題は全国で裁判が行われているところですが、全国最初の判決が名古屋で出る予定です。保護基準は多くの他の法律に影響があり、給与や税金、医療費助成、保育園の利用料、奨学金など、子どもたちの未来を左右するものです。国ぐるみで改ざんしたデータをもとにこれを引き下げるなんて、本当にナンセンスです。

日本の社会保障の「もと」の姿を取り戻すために、医療者として、日常で感じる矛盾をきちんと代弁できる人を今度の選挙では選びたいと思います。